

# 緩衝地区（C地区）におけるシカによる被害及び被害対策の 現状と課題について

奈良の鹿愛護会（以下、愛護会）の生捕による収容個体に占める奈良市川上町（C地区）由来の割合が高いことから、当該地域からの収容頭数を減らすことが重要と考えられる。

そこで、川上町の農業被害等及びその被害対策の実態把握を行うため、有識者及び地域住民立ち会いのもと、川上町における農業被害等及び被害対策の現地確認及びヒアリングを実施した。

## 1. 調査対象

調査対象は、川上町農地及びA造園の育苗園とした（図1、図2）。川上町の農地では、鹿害阻止農家組合による鹿害防止柵（以下、防鹿柵という。）設置が進められている他、シカの捕獲檻が設置されている。A造園の育苗園では、防鹿柵は設置されておらず、シカの捕獲檻が設置されている。捕獲檻により捕獲されたシカは、愛護会により鹿苑に保護収容される。

## 2. 調査日

令和6年8月23日

## 3. 調査方法

調査は、鹿害阻止農家組合 組合長のI氏及びA造園 代表のA氏の立会いのもと、高柳委員とともに現地確認をしながら、ヒアリングにより以下の項目を把握した。なお、現地確認にあたっては奈良県、奈良市、愛護会職員が同行した。

### 【現地における確認項目と実施方法】

- (1) シカによる被害等の現地確認（防鹿柵設置箇所等）：現地確認
  - 1) 防鹿柵の設置、破損状況
  - 2) 農地等への侵入状況
- (2) 農作物等被害状況：地域住民へのヒアリング
  - 1) 被害傾向
  - 2) 被害時期
  - 3) 被害程度
- (3) 被害対策：地域住民へのヒアリング
  - 1) 対策の維持管理頻度
  - 2) 対策の満足度
  - 3) 対策の課題

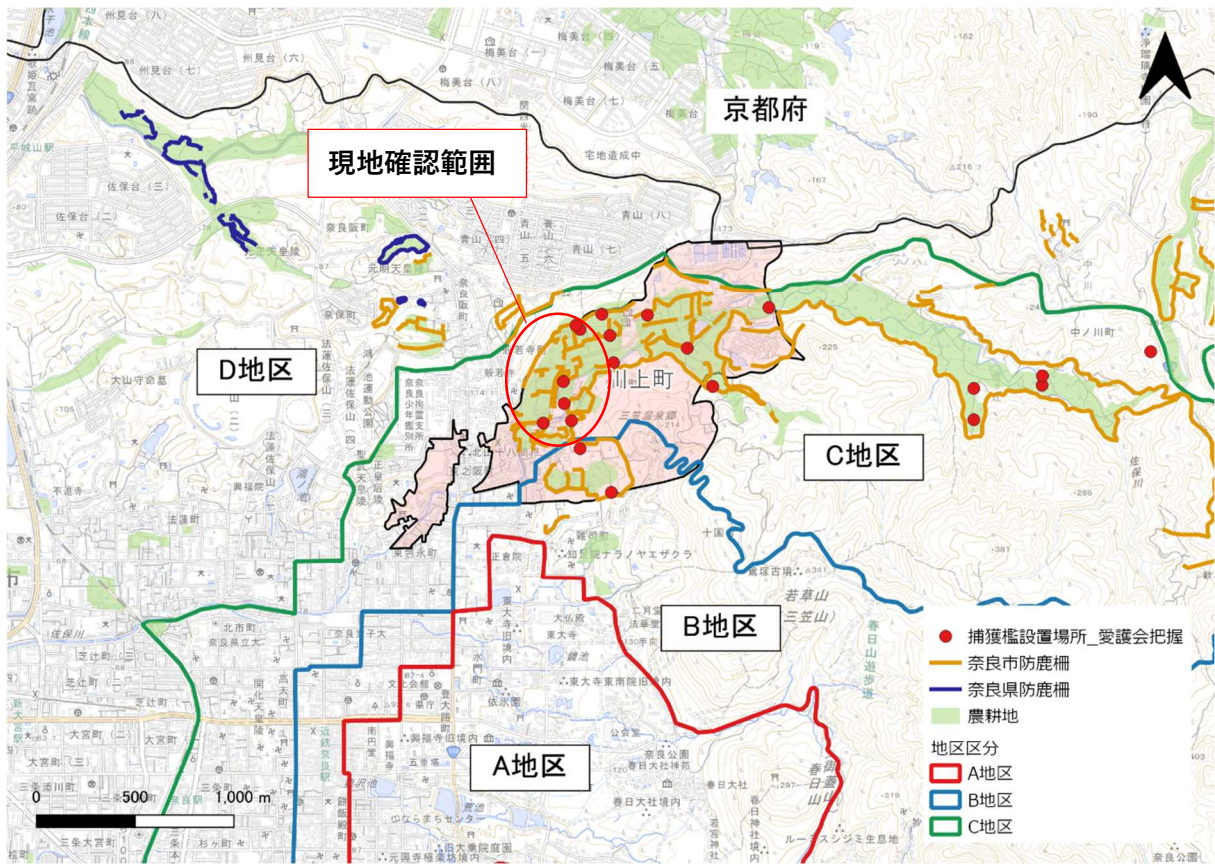


図1 川上町位置

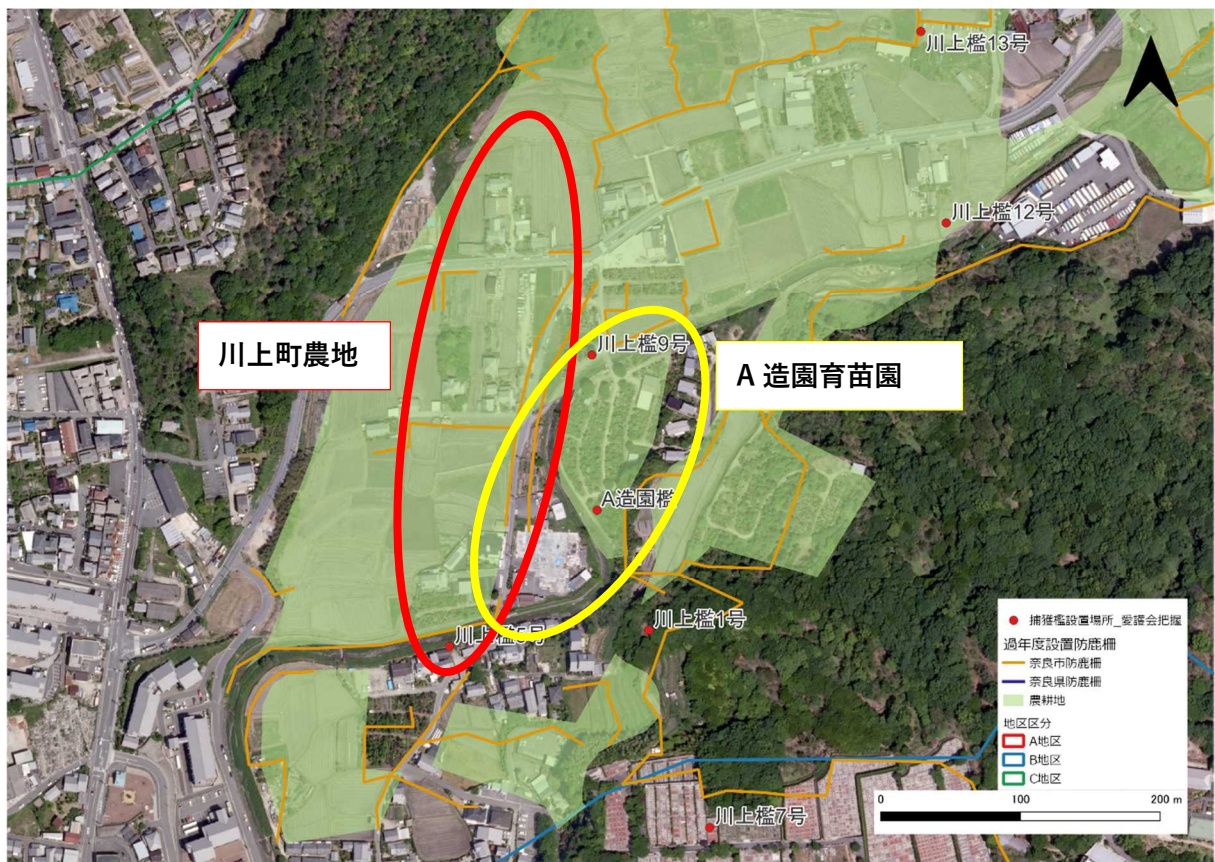


図2 調査対象地



## 4. 結果

### 4.1. 川上町農地

#### (1) シカによる被害等の現地確認（防鹿柵設置箇所等）

##### 1) 被害対策の内容、現状

###### ①防鹿柵

- ・川上町では、鹿害阻止農家組合による防鹿柵設置が進められている。同組合への奈良市からの補助金により、令和5年度現在、地域内で総延長9,998m（令和6年度鹿害対策協議会資料）設置されている。
- ・防鹿柵は、農地を完全に囲うものではなく、山林部との境界における設置が進められている。
- ・防鹿柵の仕様としては、金属柵で柵の高さが1.8m前後のものを設置されている。
- ・近年設置した防鹿柵については、柵の下部をワイヤーメッシュとし、潜り込みによる侵入等を防いでいる（写真1①）。
- ・現地確認を行った範囲においては、柵の破損は見られなかった。
- ・設置が古いと思われる一部の防鹿柵については、柵の高さが低い箇所（ $H=0.95\text{m}$ ）も見られた（写真1②）。地図上では防鹿柵が設置されている表示であっても、実際はこの事例のようにシカの侵入を防ぐことができていない箇所が他にある可能性がある。

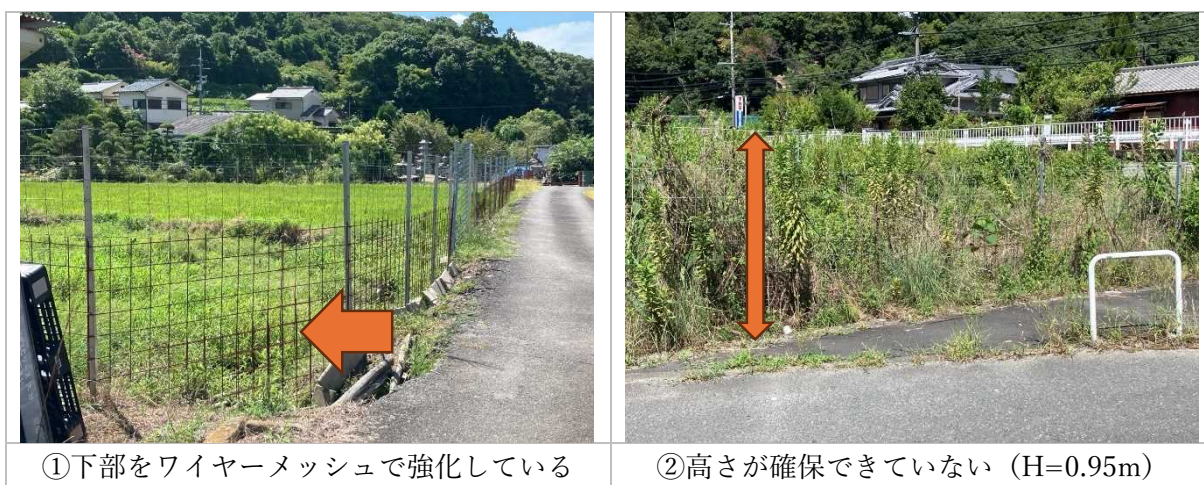


写真1 川上町農地における防鹿柵

###### ②捕獲（生捕）

- ・川上町ではシカの捕獲檻が集落内に13箇所設置されており、現在稼働している捕獲檻は7箇所となっている。

## 2) 農地等への侵入状況

- ・防鹿柵は農地を完全に囲っている仕様ではないため、農地への侵入を完全に防ぐことはできていない。現地確認において、農地への侵入痕跡（足跡）を確認した。
- ・I氏によると、防鹿柵の設置によりシカの侵入は完全に防ぐことはできていないが、侵入防止効果はある程度機能しているという。
- ・一部のシカは集落内の休耕地や耕作放棄地に住みついているという。
- ・山林との境界部において柵が設置されていない箇所については「草が繁茂しているところはシカが入ってこれないので大丈夫」という認識であった。
- ・シカの侵入経路は集落内を流れる佐保川及び道路からと考えており、南側のB地区からも入って来ているとの認識であった。
- ・佐保川における現地確認を行ったところ、侵入されやすいと考えられる箇所が確認された（写真2③）。佐保川沿いには川から上がってきたシカを捕獲できるよう檻が設置されていた（写真2④）※現地確認時は稼働していない。



写真2 佐保川の状況

### (2) 農作物等被害状況

#### 1) 被害傾向

- ・I氏によると、防鹿柵により被害はある程度は抑えられているという認識であった。

#### 2) 被害時期

- ・被害は主に稲の収穫期前（9月後半）に発生する。

#### 3) 被害程度

- ・被害程度について聞き取りを行ったが、「被害程度の定量化は難しい」との回答であった。

### (3) 被害対策

#### 1) 対策の維持管理頻度

- ・毎年5月と9月に川上及び雑司町の農家組合（43名）が一斉に防鹿柵の点検を行っている。
- ・古くなり補修の必要がある場合は、フェンスの張替えまたは重ね張りが行われている。



## 2) 対策の満足度

- ・I氏によると、シカの侵入は完全に防ぐことはできていないが、侵入防止効果はある程度機能しているという。

## 3) 対策の課題

- ・古くなった防鹿柵の補修や更新が課題となっている。

## 4.2. A 造園育苗園

### (1) シカによる被害等の現地確認

#### 1) 防鹿柵の設置状況

- ・現地確認及びヒアリングを行った箇所では、防鹿柵は設置されていなかった(写真3⑤)。当該箇所では育苗の作業効率が低下するため柵を設置することができないということであった。
- ・A 造園では、川上町集落内に苗を育てている箇所がいくつかあり、作業効率性が確保できるとされる場所では「4.1. 川上町農地」と同様の防鹿柵が設置されている。

#### 2) 防鹿柵内への侵入状況

- ・1) から、育苗園にはシカが自由に侵入することができる状態である。シカは主に道から侵入するものと、既に育苗園内に住みついているものがあるという。育苗園の西側を佐保川が通っているが、堤防が高いため川からの侵入はないとのことであった(写真3⑥)。



写真3 A 造園育苗園の状況

## **(2) 農作物等被害状況**

### **1) 被害傾向**

- ・被害は主に苗木や育った植木の新芽の採食、秋季以降のシカの角研ぎに伴う樹皮の損傷である。

### **2) 被害時期**

- ・被害時期は、新芽が生える春季及び角研ぎが行われる秋季以降に発生する。

### **3) 被害程度**

- ・被害程度については明確な回答を得ることはできなかった。

## **(3) 被害対策**

### **1) 対策の維持管理頻度**

- ・対策は、捕獲檻の設置が進められており、現在7基設置されている。捕獲檻は、給餌や点検がこまめに行われている。
- ・A氏の加齢に伴い捕獲檻の管理頻度は低下し、以前に比べ捕獲数は少なくなっているという。

### **2) 対策の満足度**

- ・対策の満足度については明確な回答を得ることはできなかった。

### **3) 対策の課題**

- ・対策の課題についての言及はなかった。



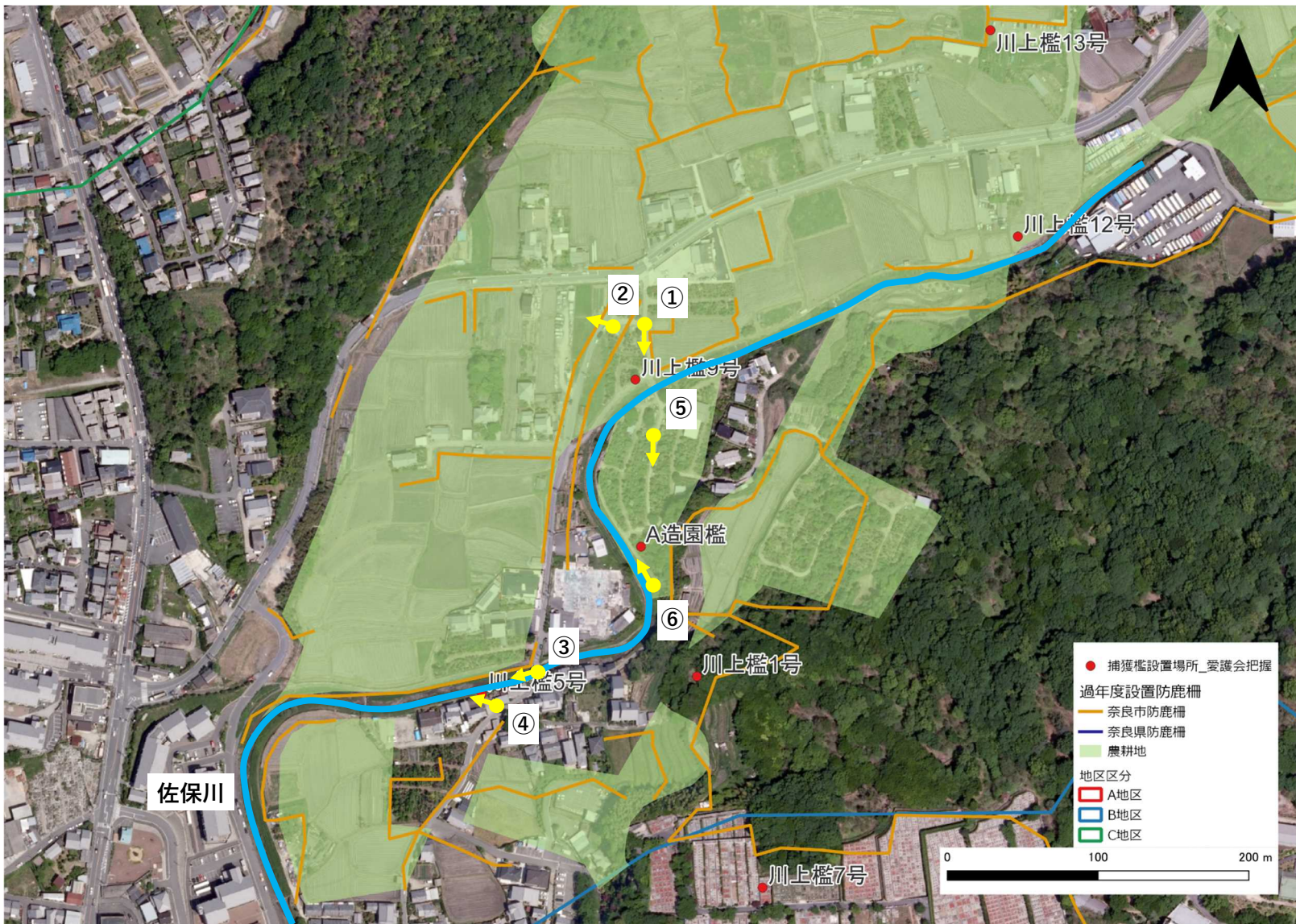


図 3 写真撮影位置

## 5. 課題の整理

### 【川上町農地】

- ・現地確認及びヒアリングの結果、防鹿柵により農業被害はある程度防ぐことができていると考えられた。
- ・防鹿柵による被害防除と合わせて、捕獲（生捕）により対策を行っているが、鹿苑の特別柵収容頭数の増加及び愛護会の出動負担となっている。
- ・鹿苑の特別柵収容頭数を低減し、愛護会の負担を軽減するためには、捕獲頭数を減らす必要があり、現在の捕獲以外による農業被害対策を強化する必要がある。
- ・具体的には、①河川からの侵入防止対策の実施、②農地への侵入防止対策の強化が考えられる。

### 【A 造園】

- ・A 造園におけるシカの捕獲頭数は愛護会による捕獲（生捕）の中で最も多く、鹿苑の特別柵収容頭数を低減させるためには、この地域の捕獲個体を減らすことが最重要であり、育苗園へのシカの侵入防止対策が必要と考えられた。
- ・現地確認及びヒアリングの結果、A 造園の育苗園では、育苗作業の作業効率性の低下を理由に、育苗園を囲う防鹿柵の設置が困難と考えられた。
- ・このため、道路及び山林からのシカの侵入防止対策を進める必要があるが、侵入経路の実態は明らかになっていない。

## 6. 被害対策の方向性（案）

5の課題を踏まえ、下記の対策の方向性（案）を示す。

### 【川上町農地】

#### ①河川からの侵入防止対策の実施

- ・佐保川沿い（特に写真③付近）におけるワイヤーマッシュ設置による侵入防止対策

#### ②農地への侵入防止対策の強化

- ・地域内でシカの侵入を防ぐことができていない箇所の抽出と、当該箇所における防鹿柵設置による侵入防止対策の強化

### 【A 造園】

#### ①育苗園への侵入が多い時期や場所の把握

- ・自動撮影カメラの設置による道路及び山林からの侵入時期、侵入経路の特定
- ・山林側でシカの侵入を防ぐことができていない箇所の抽出と、当該箇所における防鹿柵の強化